

# 令和3年度福生市総合教育会議

## 議事録

日 時：令和4年2月21日（月）午後1時30分

場 所：福生市役所第二棟4階委員会室

福 生 市  
福生市教育委員会

1	開催年月日	令和4年2月21日（月）		
2	開始時刻	午後1時30分		
3	終了時刻	午後3時00分		
4	場 所	市役所第二棟4階 第1・2委員会室		
5	出席者	市長	加藤	育男
		教育長	石田	周
		教育委員	渡辺	浩行
		教育委員	加藤	孝子
		教育委員	坂本	和良
		教育委員	新藤	美知子
	福生第一小学校 校長	林	宣	之
	福生第二中学校 校長	小出		宏
	福生第一小学校 教諭	久下	恭	介
	福生市立福生第一小学校第6学年	児 童	1	名
	福生市立福生第三小学校第6学年	児 童	1	名
	福生市立福生第一中学校第3学年	生 徒	1	名
	福生市立福生第二中学校第3学年	生 徒	1	名
	企画財政部長	石川	健	三
	企画財政部企画調整課長	中島		薫
	総務部長	小川	裕	司
	総務部総務課長	峯尾	健	二
	教育部長	中岡	保	彦
	教育部参事	勝山		朗
	教育部教育総務課長	荻島	正	義
	教育部主幹	重末	祐	介
	教育部教育支援課長	大楠	功	晃
	教育部生涯学習推進課長	菱山	栄	三郎
	教育部指導主事	古川	裕	平
	教育部指導主事	田邨	佳	宏
6	欠席者	教育委員	野口	哲也
7	事務局	教育部教育総務課教育総務係		
8	傍聴人	12人		
9	議 事	GIGAスクール構想に基づくiPadの活用等について		

本会議の結果は、別紙記載のとおりである。

福生市長 加藤 育男

【教育総務課長】 お待たせいたしました。会議に先立ちまして報告をさせていただきます。本日は傍聴者より会議の内容について、撮影および録音を行いたい旨の申し出がございましたので、市長においてこれを許可しております。また、本日はマスコミの取材が入っております。多摩ケーブルネットワーク、読売新聞社、西多摩新聞社、西の風新聞社の4社でございますのでよろしくお願いいたします。

それでは定刻となりましたのでこれより令和3年度福生市総合教育会議を開催いたします。私は本日司会を務めさせていただきます教育部教育総務課長の荻島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。なお、本日の会議は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために、一般の方の傍聴を制限して行っております。会議の様様につきましては後日、福生市公式 YouTube チャンネル「福生市メディアラボ」にて公開する予定でございます。

それでは、資料等の確認をさせていただきます。お手元には学校における ICT を活用した教育について特集した広報誌を3部置かせていただいておりますので、会議の参考になさっていただきたいと存じます。また、市長、教育長、教育委員の皆さまには学校で児童・生徒が実際に使用しております学習用 iPad を置かせていただいております。右側の丸いボタンを2回押しますと本日、児童・生徒の皆さんに発表いただくスライドがご覧いただけるようになっておりますのでご確認ください。

それでは次第に従いまして総合教育会議を始めます。次第の2、市長あいさつとなります。加藤市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 改めまして皆さん、こんにちは。令和3年度の福生市総合教育会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。平成27年度から始まりました総合教育会議は今年で7年目を数えるわけですが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止といたしましたので、2年ぶり9回目の開催ということになります。

この間、皆さまご承知のように世界は新型コロナウイルス感染症の流行に見舞われ、今も国を挙げてまん延防止に取り組んでおります。福生市でも3回目のワクチン接種を全力で推進するとともに、福生市の小中学校の先生方等につきましては2月から優先接種を実施し、感染の拡大を何としても防ぼうと取り組んでいるところでございます。

しかしながら、市内小中学校でもオミクロン株が流行した1月から2月にかけて陽性となった児童・生徒さんが多く、一時は学級閉鎖や学年閉鎖をする小学校があり、大変心配しておりました。2月の第1週をピークに現在は減少傾向にあるという報告を受けて、少し安心をしているところでございますが、まだまだ予断を許さないというふうに思っていますので、全力で取り組んでまいりたいと思っております。従いまして、本日も対面による開催をするかどうか随分考えましたが、感染対策を十分に行い、時間も1時間30分に短縮して実施をすることといたしました。

さて、本日の会議では小学校6年生と中学校3年生の4名の児童・生徒の皆さんとお二人の校長先生を会議にお招きいたしました。これは福生市の総合教育会議では初めての試みでございます。また、中学生のお二人はもう進路も決定しているというふうにお聞きしておりますのでおめでとうございました。皆さんには福生市が昨年1月に全ての児童・生徒に配付いたしました iPad 端末について、その活用状況等をお話したいと思っております。児童・生徒の皆さん方にはご自分の iPad を使って作成したプレゼンを紹介していただけると聞いております。とても楽しみにしております。その後、教育委員の皆さま方と iPad を使った教育の状況やウィズコロナの学校にも触れられながら協議を深めてまいりたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【教育総務課長】 次に次第の 3、教育長あいさつとなります。教育長、よろしくお願いいたします。

【教育長】 皆さん、こんにちは。教育長の石田と申します。加藤市長はじめ企画財政部、総務部、子ども家庭部など日ごろから市長部局の皆さまには福生市教育委員会の諸施策の推進についてご理解とご協力、厚いご支援を賜っておりますことに、改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。おかげさまで iPad を配備後、各学校では ICT を活用した授業の改善が随分と 1 年間で進んだというふうには認識しています。本日は福生市総合教育会議会議規則の 5 条に基づいて学校現場の ICT 活用状況等について実感を持って意見聴取をしていただきたいと思いますと思っております。

さて、ただ今、加藤市長からお話ございましたが、児童・生徒の皆さん、今日は市役所まで来てくださって本当にありがとうございます。皆さんは学校の代表としてだけではなく、福生市の子どもたち 3,321 人の代表です。市長や教育委員の前でお話することは緊張するかもしれませんが、皆さんは、4 月から高校へ進学、または中学校へ進学する、最高学年としていらして下さっています。ぜひ皆さんが普段の学校生活で感じていることやこれから力を入れたいことなど、自信を持って発表してみてください。

校長先生方には iPad 活用による授業改善や 4 月までに全学級に追加配備される、今日ここにもございますけれども電子黒板あるいは大型テレビの活用等、環境面を含めて、今後の福生市の学校がどのように ICT 教育を推進していくのかについて、現場を預かる校長先生として率直な御意見をお願い申し上げます。

結びとなりますが、第 6 波の影響で 1 月から 2 月にかけて予定されておりました教育委員の皆さんによる学校訪問が 4 校とも中止となっております。各教育委員におかれましては本日のこの機会を捉えまして、改めて iPad の活用状況や今後の授業改善への議題あるいは iPad の活用に当たり懸念されることなど加藤市長とともに教育委員会として意見を交換し、共通認識が持てると今後の施策推進に生かしていけるというふうに思っております。本日は皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【教育総務課長】 それでは次第の 4、議題に入る前に本日御参加いただいております校長先生方、教育委員の皆さまのご紹介をさせていただきます。まず、校長先生方をご紹介いたします。福生第一小学校、林校長でございます。

【林校長】 こんにちは。よろしくお願いいたします。

【教育総務課長】 福生第二中学校、小出校長でございます。

【小出校長】 よろしく申し上げます。

【教育総務課長】 児童・生徒の皆さんについては後ほどの協議の中で自己紹介をお願いしたいと思います。続きまして、教育委員の皆さんをご紹介いたします。加藤教育委員でございます。

【加藤委員】 よろしく申し上げます。

【教育総務課長】 渡辺教育委員でございます。

【渡辺委員】 こんにちは。

【教育総務課長】 坂本教育委員でございます。

【坂本委員】 坂本です。今日は皆さんの話を楽しみにしています。よろしくお願いします。

【教育総務課長】 新藤教育委員でございます。

【新藤委員】 よろしくお願ひいたします。

【教育総務課長】 なお、野口教育委員におかれましては本日所用のため、御欠席の御連絡をいただいております。また、市の職員につきましては誠に略儀ながらお手元の座席表により私から役職名を御紹介させていただきます。企画財政部長

【企画財政部長】 石川でございます。どうぞよろしくお願いします。

【教育総務課長】 企画調整課長

【企画調整課長】 中島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【教育総務課長】 総務部長

【総務部長】 小川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【教育総務課長】 総務課長

【総務課長】 峯尾でございます。よろしくお願いいたします。

【教育総務課長】 教育部長

【教育部長】 中岡でございます。よろしくお願いします。

【教育総務課長】 教育部参事、教育部主幹、教育支援課長、以上でございます。  
それではこれより次第の4、議題に入ります。加藤市長、議事の進行をお願いいたします。

【市長】 それでは私のほうから会議を進めてまいります。よろしくお願いいたします。次第4、議題GIGAスクール構想に基づくiPadの活用等について、意見聴取を行います。本市ではGIGAスクール

構想に基づき令和2年度の1月以降に市内の全小中学校に一人一台、タブレット端末 iPad を導入いたしました。

子どもたちは配備した iPad を使いこなせるものかといった不安も多少はありましたが、学校の先生方のご指導の成果もあり、しっかりと日々の学習で iPad を文房具のように活用されてきていると聞いております。やっぱり子どもたちは早いんだなというふうに思っています。また、子どもたちに配備をした iPad は LTE 端末なので、自宅に毎日持ち帰って学習に取り組んだり、社会科見学や修学旅行にも持っていき、現地でも調べ学習に取り組んだりすることができているとのことでございます。

さらに昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響を受けて学級閉鎖や学年閉鎖を余儀なくされた学校もございましたが、そのような状況下にあってもオンライン学習を実施し、学びを止めることがなかったということを知り、大変うれしく思っているところでございます。

今年度はその活用の様子を教育委員会が広報誌やさまざまな発表会の場で積極的に周知をしてきておりましたが、全国からの問い合わせの声も多く大変誇らしく感じているところでございます。早めの手を打ってよかったかなというふうに思っておりますし、やっぱり施策の展開は早め早めにやっぴかなきゃならないということを改めて感じさせていただいております。まずは本日 iPad の ICT を活用した学びについて、児童、生徒の皆さんから意見を聞かせていただきたいと思っております。初めに自己紹介をお願いします。お名前と学校と学年、そして好きな教科や趣味、今ががんばっていることなどなど、ご自分の PR を加えて一人一分じゃちょっと短いかもしいから何分でも結構ですからお願いいたします。では、福生第一小学校から続けて順番にリレー方式でお願いいたします。じゃあ、第一小児童さん、お願いします。

【第一小児童】 福生第一小学校 6 年 1 組の児童です。趣味は野球をすることです。今ががんばっていることは国語の勉強です。よろしくお願いします。(拍手)

【第三小児童】 福生第三小学校 6 年 2 組の児童です。好きな教科は社会と英語。好きなことは読書と工作です。よろしくお願いします。(拍手)

【第一中学生徒】 福生第一中学校 3 年 4 組の生徒です。中学一年生の初めから中学二年生にかけて生徒会に所属していました。よろしくお願いします。(拍手)

【第二中学生徒】 福生第二中学校 3 年 3 組の生徒です。部活はサッカー部に所属していました。趣味はピアノを弾くことです。よろしくお願いします。(拍手)

【市長】 文武両道でがんばってください。ありがとうございました。それでは、児童・生徒の皆さん方から iPad を活用した学びについて、皆さんが作成したプレゼンテーションの発表をお願いします。それでは第一小児童さん、お願いいたします。

【第一小児童】 「福生一小と iPad」、福生第一小学校 6 年 1 組の児童です。6 年生では毎日 iPad を活用しています。これは Teams を使って、社会の授業で先生から出された問題に挑戦しています。Teams を使うと自分の考えが一気にみんなに伝わって便利です。6 年 1 組の Teams では全部で 11 のチャンネルがあります。連絡を伝え合ったり、話し合ったりしています。

次にミライシードです。ミライシードは外国語の授業で活用しました。習った英語でクイズを作ってクイズを出したり、答えたりしました。みんながクイズを解くことができて楽しかったです。また、総合では福生ドッグについて調べて、オリジナルの福生ドッグを考え、給食に出してもらいました。考えた福生ドッグについて、福生市内の学校のために紹介動画を作りました。5年生は社会科でミライシードを活用しています。調べたことについて自分で資料を探して、分かったことをオクリンクで共有しています。また、総合では武蔵野商店街に取材に行って、分かったことをテレビ番組のような動画を作ってまとめています。4年生はパワーポイント作りに挑戦しました。文字だけでなく、写真を入れたりして楽しく活用していました。1年生から3年生もそれぞれ活用しています。

僕は来年中学校に進学します。中学校になったらiPadを使ってもっと学習を深められるようになります。これで発表を終わります。(拍手)

【市長】 第一小児童さん、ありがとうございます。中学生になってもがんばってください。次に第三小児童さん、お願いいたします。

【第三小児童】 これからiPadを学校や家でどのように使っているかについて話します。1つ目はミライシードのオクリンクです。主に国語や算数、社会の学習で活用しています。その中でも今回は社会の授業について説明します。まず、教科書やインターネットなどで調べたことをオクリンクのノートにまとめます。その後、共有画面機能を使ってみんなが調べてきたことを比較します。そうすることによって自分1人では調べきれなかったことまで知ることができて、自分の考えが深まることにつながっています。

2つ目はデジタル教科書です。これまでの教科書を使っていると文章を書き写したり、写真をコピーして切り取ったりするのに時間がかかり、ノートにまとめることが大変でした。しかし、デジタル教科書はその作業が簡単になったので調べたり、考えたりする時間を増やすことができました。

3つ目はテキストマイニングです。これを使うことによってキーワードを整理してまとめの文を作成したり、振り返ったりするのに役立ちました。

最後にドリルパークです。これもミライシードの中の機能ですが、授業のまとめとして取り組んだり、授業の初めの振り返りとして取り組んだりしています。答え合わせの機能も付いているので自分の課題に合わせて取り組むことができます。自主学習の一つとしても取り組んでいます。これで終わります。(拍手)

【市長】 第三小児童さん、ありがとうございました。恥ずかしながらデジタル教科書って初めて今知ったけれども、そういうことになっているんだ、今。ありがとうございます。続きまして第一中生徒さん、お願いいたします。

【第一中生徒】 福生第一中学校3年の生徒です。2年生のときにiPadが導入されて多くのことが変わりました。まず、勉強面で一番大きく変わったことは疑問に思ったことをすぐに調べられるようになったことだと思います。英語や国語の授業では分からない問いを検索したり、日本語を翻訳することができるようになりました。同様に理科や社会では先生が何気なく発したことや説明したがよく分からなかったことがすぐに調べられるようになりました。単語の意味だけでなく、成り立ち等を一緒に覚えることで覚えやすくなりました。

生活面ではクラス全員へのデータ送信が可能になりました。Teams に係や委員会からの連絡をすることで、口頭だけでは伝えきれないことや資料なども送れるようになり、より質の高い連絡をすることができるようになりました。また、私たち学級委員は時間割を毎日 Teams に投稿しています。その結果、クラス全員の忘れ物が減ったと思います。Teams に何かを上げるときに個人情報の観点から名前や顔写真を上げられないように気を付けていますが、行事が少ないこともあり、行事後のクラス写真などを上げればいいなと思っています。

ところで私たち 3 年生は 2 年生のスキー学習や 3 年生の修学旅行が新型コロナウイルスの影響でなくなりました。食事中は前を向いて黙食をしなければなりません。会議や部活も Teams もしくは自室でした。あらゆることが今までと違い、制限が多くて大変でした。それでも休校せず学校生活を送れていることに感謝しています。

最後に一中では iPad のルールを生徒が決めました。しかし、iPad を文房具としてでなく、決められた時間外に動画や漫画を見たり、iPad の中にあるゲームをしたりしている人がいることも事実です。しかし、私はそのこと以上に iPad が勉強の幅を広げていると思っています。ですので、私は ICT 化を進めていってほしいと思っています。これで発表を終わります。(拍手)

【市長】第一中生徒さん、どうもありがとうございました。本当に私も聞いているけれども、一中はスキー教室も修学旅行も行けなかったんですね。二中、三中のほうはちょっと行っているような部分があるので、申し訳ないなと思っていますけれども残念だった。これから高校へ行って、いろいろな新しいことにがんばってください。それでは二中の第二中生徒さん、お願いします。

【第二中生徒】はじめまして。福生第二中学校から来ました。本日は iPad について、コロナ禍について、オンライン配信による授業の環境の 3 つをお話したいと思います。

まず、iPad についてお話しします。私の学校では生徒総会や生徒会役員選挙、朝礼などをコロナウイルスの影響で体育館で行うことができないので、iPad を使用したりリモートで行っています。また、生徒会では福生一中、三中との生徒会交流会を行いました。コロナウイルスの影響で対面ができなかったので、Teams を使ったオンラインで行いました。授業ではオンラインを使用することで簡単にクラスの意見を共有することができ、コロナ禍でも Teams を使って班活動を行うことができました。しかし、iPad を授業で使用すると一度にアクセスが集中してしまい、iPad の動きがとても重くなってしまうことが課題であると感じています。

コロナ禍で我慢したことは行事です。楽しみにしていた 2 年生の職場体験やスキー教室に参加することができず、とても残念でした。しかし、幸いなことに私の学校では就学旅行に行くことができました。教科書やガイドブックで見えていたお寺や神社を実際に見ることができ、とても良い経験になりました。

最後にオンライン配信による授業の感想をお話しします。今までは学校を休んでしまうと少しも授業に参加することはできず、プリントや資料も見ることができませんでした。しかし、オンライン配信が始まったことでプリントや資料を、Teams を通して見るできるようになりました。一方でオンライン学習ですが、オンラインの授業を実際に受けてみると画質や音声に見えづらさや聞き取りづらさがありました。これが改善されるとさらにオンライン学習が良いものになると思います。これで終わります。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

【市長】第二中生徒さん、ありがとうございました。修学旅行とかスキー教室とか言われるとちょっと



ドキドキしてきますけれども、本当に行けたところと行けないところがあってちょっと不公平感があるんだけれども、でも皆さんこの ICT を活用しているなど。素晴らしくうまくやってもらって、私には思いもよらない活用の仕方もあるなどということを確認させていただきました。ありがとうございます。本当に素晴らしいプレゼンテーションでございました。

さて、それでは少しずつ私もちょっと聞いていきたいと思うんですけれども、今、一番びっくりしたのが ICT を活用して第一中生徒さんが、忘れ物が減ったという話をしていたよね。やっぱりそれぐらい影響力があるのかな。もう一回ちょっとそここのところだけ第一中生徒さん、話してくれますか？

【第一中生徒】 ICT というか、iPad が配付される前は一人一人が紙に書いたりしていたので、忘れたり、書いた紙が教室に落ちていたりしていることがあったんですけども、学級委員が Teams に投稿することで全員が確認できるので、忘れ物が減ったと感じました。

【市長】 そうですね。ありがとうございます。それは小学生のお二人もそう感じていますか？ どうですか、第三小児童さん。

【第三小児童】 三小では、まだそういうふうに Teams 上に載つけてやってはいないんですけども、私たちは 1 週間の予定表は先生から配られて、それをみんなで見ています。忘れ物する人はいるにはいるんですけども、前よりは少なくなったとは思っています。

【市長】 ありがとうございます。第一小児童さんは同じような考えですか。そう。中学生になったらああいう感じになるだろうね。期待しててください。

それから、もう一つ聞きたいのですが家庭ではどういうふうに使っているのかな。まず、中学生、第二中生徒さん、どのように使っているかちょっと教えていただけますか。

【第二中生徒】 私の学校ではタブレットの Teams を使って課題が出せるので、家庭ではその課題を主に行っています。他にもミライシードを使った自主学習は行っている人もいます。

【市長】 ありがとうございます。あと、ちょっと小学生は難しい話ですが、他の自治体ではこの iPad というか、その ICT を使って、いじめというのがあったことがあるんだよね。そういう部分は福生の場合はどうかなと思って。もう一度今度は生徒さん方に聞きたいんだけど、第一中生徒さん、どうですか、そういうところ。

【第一中生徒】 おふざけの状況で、黙って写真をとる、盗撮みたいなことがあるのは事実ですが、撮られた本人は嫌とかいじめとかそういう感じではないので、いじめとして考えるほどの大きなことは起きていないと思っています。

【市長】 そうですね。第二中生徒さんもそういうふうに感じますか。どうですか。

【第二中生徒】 私も同じような感じで、私の聞く限りではいじめは起こっていないと思います。

【市長】 良かった。すごく心配していたので。本当に生徒さん方に直接聞いていいかどうかちょっと心配だったけれども、良かったです。

あと、これから皆さん方が中学に進む、あるいは高校に進む。iPad についてどういう使い方をしていきたいと思っていますか。まず小学生のお二人、第一小児童さんから。

【第一小児童】 ミライシードや学習について調べたりして、もっと学習を深めていきたいです。

【市長】 ありがとう。では、第三小児童さん、どうぞ。

【第三小児童】 iPad を配られたときのルールをみんな何か忘れちゃっている感じがしちゃっているから、1 回それを見直してからもっと学習に役立てるように使いたいと思っています。

【市長】 ありがとう。また、第一中学生徒さん、お願いします。

【第一中学生徒】 今回配付されたものの中で実際使われているのが、私自身が使っているのがワードとパワーポイント、Teams、Safari だけなのでもっと多くのサイトやアプリを使っていきたいと思っています。

【市長】 ありがとうございます。どうぞ、第二中学生徒さん。

【第二中学生徒】 私も学校で出される課題や、やってほしいといわれることだけでなく、自分から進んでこのような電子機器をより活用していけたらいいなと思っています。

【市長】 ありがとうございます。最後にもう一回だけ質問させてください。先ほど第一中学生徒さんのプレゼンの中で調べたいことがすぐ分かるという話がありました。私なんか結構古い人間で昔小中学校のころ勉強するときには辞書とかあらゆる書物、本を頼りに一生懸命探し出して勉強したものなんだけれども、それが結構いまだに覚えている。苦労したから覚えているというような感覚があるんだけど、すぐに分かってしまったらすぐに忘れそうな気がするんだけどそういうことはないですか。第一中学生徒さんと第二中学生徒さんに聞きます。

【第一中学生徒】 正直その場だけというのはあると思っています。ただ、先ほど話したとおり、成り立ちや意味と一緒に覚えているので、また辞書とかに書かれていないことも分かると思います。

【市長】 分かりました。第二中学生徒さん、どうですか。

【第二中学生徒】 私もすぐ調べられるということは便利で良いことだと思うんですけども、辞書などを使って調べたほうが頭には入ってくると思います。でも、iPad で調べるとその物事に関する周辺の知識も一緒に見ることができるので、そのような知識も一緒に学ぶことができるといいと思います。

【市長】 ありがとうございます。今日の質疑に満足していて、本当に有効活用していただいているな

ということを思わせていただいています。ありがとうございました。これからもこの iPad を文房具のように活用して、皆さんの学びを止めないようにがんばっていただきたいと思っております。本当に私どもも皆さん方にこれを提供した甲斐があるなということを感じています。ありがとうございました。児童・生徒さん方は何か言い残したことはありますか。大丈夫ですか。大人の方がいっぱいいて、本当に緊張した場面だったけれども素晴らしい受け答えをしていただきました。本当にありがとうございます。皆さん、拍手をお願いいたします。(拍手)

【教育総務課長】 それでは児童・生徒の皆さまにおかれましては、これから 1 回退室をしていただきますのでよろしくお願いいたします。忘れ物がないように 1 回外のほうにお願いいたします。

【市長】 どうもありがとうございました。(拍手) ありがとうございました。児童・生徒が退席されたんで、私もちょっと緊張が解けています。それでは次第の 4 (2)、校長先生方からの意見聴取に移ります。iPad や Apple TV、電子黒板等の ICT 機器の活用についての総括、コロナ禍における学校生活、経営についての現状、今後の授業改善、学校生活改善等について福生第一小学校の林校長先生からお願いをいたします。よろしくお願いいたします。

【林校長】 改めましてこんにちは。福生第一小学校校長の林でございます。福生第一小学校では、導入当初は教員も手探りの状態で、どうしたものかという感じでした。本校は若い教員が非常に多い学校で、若い教員が多いということはそういった機器が好きな教員も多くて、そういう好きな教員が興味を持ってああでもない、こうでもないといじっているうちに自然に ICT のリーダーに成長していったという経緯があります。本日、後でデモンストレーションをお見せします久下教諭もその大事な一人ですけれども、今年度、年間の校内研修も本校は ICT、iPad 活用にしましたし、それ以外にも自主的に放課後勉強会をもったりして非常に ICT のリーダーとしての人材育成につながったなというのが校長としての感想です。今では職員室でミライシードとかオクリンクとかそういう言葉が自然に飛び交っていますし、企画会議も今はもうペーパーレスで行っています。

コロナ禍の状況ですがコロナ禍では一番大きいところはやはり事務量が非常に多くなったかなという印象はあります。特に保健所の代わりに疫学調査をしなければならなくなった段階から非常にやることが増えて、大変になったなという印象です。ただその一方でマスクを着用したり、放課後教職員が消毒に各教室を回ったりするとかそういった姿がもう自然な毎日になりました。iPad も当たり前のように、例えばコロナ不安でお休みをしている子が少なからずいるわけですが、iPad を使って必ずそのオンラインの平行授業を行っていますので、子どもたちは自宅でも安心して授業を受けられるような状況になっています。行事についても教育長の方針のとおり、感染対策を十分に講じて教育活動をできる限り行っていくという方向で進めています。

今後についてですけれども、私が校長としてよく職員に言っているのは ICT 機器の使用が目的化しないようにということです。ICT はあくまでも手段であって、使用することが目的ではないと伝えていきます。使用ではなくて、活用であるということを教職員には常に話をしています。決して ICT や AI に振り回されずに、主体的に使っていくという姿を児童に見せていくということも教員の大事な仕事だというふうに考えています。以上でございます。

【市長】 ありがとうございます。それでは小出校長、お願いいたします。

【小出校長】 福生第二中学校の小出です。よろしくお願いします。ICT 機器活用について振り返ること、次にコロナ禍の学校経営、そして最後に今後の教育活動にどんな展望を持っているか、この3点でお題をいただきましたので一つずつお答えしたいと思います。

まず、第一に、この1年間を、ICT 機器の活用ということで振り返ります。授業での使用頻度はこの1年で相当高まってきていると思っています。中学校の場合、特に Teams、それから Forms の使用が多いと思います。本校ではまずこの貸与された iPad を、「連絡と把握」という2つの使用方法から使い始めました。

「連絡」は授業の目的や内容を伝えたり、課題を提示する、「把握」は一人一人の学習状況をつかむ、様々な活動で情報を共有化する、そうしたイメージで捉えます。そして、このことを日常的に行っていく、つまり普段使いすることを目指してきました。最終的にはこうした取り組みを経て現行の学習指導要領が示す新しい学力観に基づいた授業の実現へとつなげていきたいと思っています。

教員について、今、林先生からもお話がありました。若い世代は新しいツールに対して何の抵抗もなく直感的に使い始めています。ICT の活用においては放っておいても大丈夫な人たちです。問題は私も含めた40代後半から50代、60代の教員です。まず新しい道具を使うということ自体にストレスを感じ、そしておっかなびっくり使い始めるという感じです。悪戦苦闘していますけれども、決して逃げずに彼らは彼らなりに挑戦をしていると感じています。

次に、コロナ禍の学校経営についてです。感染予防を徹底しつつ可能な限り予定された教育活動を実施できるように努めました。ただ、ほぼ全ての活動でコロナ対応を常に考えながら修正や変更をしなければいけないのでとても大変だったと思います。ある意味、例年どおりとはいかないところで我々教員の対応力、あるいは創造性といったものが試されていると感じました。

子どもたちですけれども、コロナ禍で子どもたちのリアルな体験が不足気味になっています。それから全体的に体力の低下が見られます。また、保護者や地域の方々から、学校の活動が見えないと言われることがあります。その中で、生徒の様子や学校の考えなどを伝えようとする際、ICT が非常に役に立ちました。生徒に配られている iPad の Teams は当然保護者の方々への情報提供としても使えるわけです。お子さんの Teams を見ていただくと、学習内容もある程度確認できます、といった事も伝えてきました。

さらに、学校連絡メールについて、これは使い始めてからすでに10年以上経過したと思いますが、これが大変役に立つと再認識しました。登録者がほぼ100%、シンプルなものですが、保護者の方はメールが来ると必ず開いてくれます。よって、ほぼすべての保護者の方に、時間差なく学校からのメッセージを伝えることができ、このコロナ禍で、学校の対応についての様々な連絡をご家庭に伝えるにはこれが一番だということが数多くありました。とても便利で頼りになるツールだと思います。

最後に、今後の教育活動で大切にしたいことを少しお話させていただきます。新しい学力観に立った授業づくり、授業の改善を進めていきたいと思っています。一人一人の学習段階に応じた学習活動、個別最適な学び、学習の個別化といったことが求められていますが、それぞれの学習状況や興味・関心に対応できる授業づくりを行いたいと思います。このことは教員にとって大変難しいことですが、必要なことだと思います。ICT はこの新しい学力観に立った授業を行う上で必要不可欠なツールであると捉えます。単に、合理化する、伝達しやすくする、というレベルにとどまらず、さらに授業そのものを変えていくべきだと考えます。

また、子どもたちのリアルな体験活動を増やしていきたいと思っています。もとより、様々な体験の

不足が指摘される中で、コロナ禍によりさらに体験が減りました。子どもたちの豊かな心、あるいは主体的かつ創造的に生きるための知恵というのは、リアルな体験から生まれるように思います。コミュニティ・スクールの機能を生かし子ども達には地域の方々がたくさん触れ合ってほしいです。また、学校外での様々な体験的な活動を工夫し実施していきたいと思います。

以上です。

【市長】 小出校長先生、ありがとうございます。iPad を単に導入するというだけではなくて、導入したことによってさまざまな難しい部分があるなということも感じさせていただきました。

【教育総務課長】 そうでしたら、ここでこちらの真ん中にあります電子黒板をご覧ください。こちらは昨年度、第一小学校に導入したものをお持ちしております。ここで電子黒板を実際に使って、第一小学校の久下教諭によるデモンストレーションをお願いしたいと存じます。よろしくお願いたします。

【久下教諭】 よろしくお願いたします。こんにちは。福生第一小学校の久下恭介と申します。福生一小に来てから4年目になります。福生一小の子どもたちは素直で伸び伸びとしていて、私自身も楽しく過ごさせていただいております。では、電子黒板について説明します。この電子黒板ですが、とても使いやすいと思います。黒板とは違って色をすぐに変えて書くことができます。見やすい色や見づらい色もあるので、子どもにとって見やすい色を使って授業ができます。

また、背景も変えることができます。例えば、直線であったり、音楽で使える五線譜であったり、体育で使えるコートであったり、いろいろな用途に合わせて背景を変えたり、色も変えることができますので使いやすいです。そして、書いたものは手で直感的に消すこともできるので、教員だけでなく子どもにとっても操作しやすいものとなっています。自分の学級では、電子黒板で書きたがる子どもがいるくらい、楽しく学習に取り組めるものとなっています。

また、書いた文字は黒板だと移動ができないので、消さなければいけないということが多いのですが、電子黒板で書いた字は移動できたり、小さくしたり大きくしたりすることもできるので、とても便利に使えます。

この電子黒板は、いろいろな資料を保存することができます。例えば、今画面に映し出されている画像は、消防車の画像です。社会科の学習のときにこの消防車の特徴などを子どもたちに考えさせることができます。子どもからは、「ここにはしごがある」とか、特徴的な部分を子どもに考えさせることができます。電子黒板が導入される前は、テレビを使って画像を示していました。しかし、子どももテレビだと小さいので見づらかったりしますが、このように電子黒板だととても大きく資料の掲示ができるのでとても見やすいし、電子黒板だと資料に直接書き込めるという点がとても使いやすく、子どもたちの学習も捗ると思います。

この電子黒板は、デジタル教科書との取り合わせもとても良いです。今は iPad とこの電子黒板を無線でつなげることができます。設定さえ済ませてしまえばすぐに授業に活用できます。例えば、今電子黒板に映しているのは、3年生の算数の「重さ」の学習ですけれども、iPad で操作するとすぐに電子黒板に反映されて、かつ、ここに書き込むことができます。電子黒板が導入される前は、大きな紙に、はかりの画像を印刷して、「200 グラムと 300 グラムの間にあるから 250 グラムですね」と、説明していました。紙で学習する良さも当然ありますが、電子黒板を使用することで、画像をズームすることができ、数値を書き込むことで、紙よりも見やすく学習することができ、便利になりました。また、子ども

たちからも、見やすいと評判が良いです。

デジタル教科書内には動画などもあります。教員が説明するだけでは子どもが理解するのは難しい場面があります。その際に、デジタル教科書の動画を見せることで、視覚的に理解することができます。例えば、はかりで重さを量る動画があります。デジタル教科書を使うと、音声付きで重さを量るときのポイントを教えてください。このようにデジタル教科書の動画も活用して、授業を進めることができるので、授業の選択の幅が広がりました。

算数以外にも国語のデジタル教科書があります。国語のデジタル教科書は、教科書の指定した部分を読み上げる機能があります。そして読み上げている部分が黄色くなっているので今どこを読み上げているのかがとても分かりやすいです。

あとは、国語のデジタル教科書は本文と挿絵があり、本文だけを見せたいときは、挿絵を表示せずに字を大きく拡大することができるのも良い点です。また、先ほどの電子黒板の書き込み機能を使って、電子黒板に映し出した教科書の本文に線を引くことができます。3年生の国語では、「すがたをかえる大豆」を学習し、大豆がどのような工夫を経て様々な食材や調味料になっているのかを考える学習をしました。その際に、電子黒板に大きく映し出された教科書の本文があることで、書き込むことができ、今まで苦手だった子どもが授業に参加できていると実感しています。

最後にオクリンクについて説明します。オクリンクは、子ども同士の考えを共有できるツールの一つです。オクリンクを使った授業の一例として、理科の「磁石」の授業で使いました。まず、子どもたちに磁石を持たせて、「磁石でくっつく場所を探そう」と言い、実際に教室を歩き回って磁石が付く場所を探しました。従来の授業では、磁石が付いた場所を数名の子どもが発表するだけなのですが、オクリンクを使うことで全ての子どもが発表できます。写真を撮って、オクリンクで提出することで、今まで発表できなかった子どもも発表できます。また、児童が提出した写真を電子黒板に映し出すことで、他の児童にも写真を見せることができ、効果的に学べます。子どもたちの発見というのはすごくて、自分では思いもよらない部分に気が付きます。子どもたちも「こんなところに磁石が付くんだ」という発見がたくさんありました。何でこんなところに付くのかなという発見や疑問があり、子どもたちなりに磁石が付く物質の共通点を見つけ出して、その次の学習につなげることができました。この点が、ICT機器を通してとても分かるようになりました。

この電子黒板や一人1台端末を導入してから、今まで発表しなかった子どもが発表するようになりました。ノートに書くのが苦手な児童も授業に参加できるので、子どもたちもたいへん意欲的に学習に参加します。この電子黒板があると教員としては子どもに分かりやすく教えることができ、子どもにとっても分かりやすく楽しい授業になると思いました。

私の伝えたいことは以上です。分かりにくかったら申し訳ございません。ありがとうございました。

(拍手)

**【市長】** 久下先生、ありがとうございました。手前味噌ですが、私もプレゼンしますが、他の自治体ではこの電子黒板をこれだけのお金をかけてやっていないと思いますので、福生はこれだけのことができています。久下先生と同じように皆さんこれを使える習熟度というのは、先ほど小出校長からも話がありましたけれども、若い人たちはみんな全部こういったかたちで久下先生と同じように使いこなしているのですか。

【久下教諭】 今は学校に1台しかないのですが、私はすごく使わせていただいていますので説明ができるのですが、やはり使っていない先生はまだ苦手な部分もあると思います。子どもも使っていてどんどん詳しくなっている部分もありますし、先生方も多分ある程度のところまでは使っていくと分かると思います。その足りない部分については OJT などを使い方について伝える場面を設定すれば、どの先生も活用できるのではないかなとは思っています。

【市長】 分かりました。ありがとうございます。できたらもう少し増やしていきたいと思っています。

【久下教諭】 ありがとうございます。

【市長】 それでは、校長先生方と意見交換をさせていただこうと思っていますが、先ほど今の話に関連しますけれども小出校長先生から私も含めてですけれども50代、60代の先生、この時代を乗り越してこなかった人間はこれを使いこなすというのは相当大変だと思うんですよ。うちの議会の中でも使いこなせない方が結構いるみたいで、そういう部分でいうと、そういう年代の人たちはやっぱり大変ですよ。そういった点について校長先生方はいろいろなかたちを考えていらっしゃるんですか。

【小出校長】 悪戦苦闘しつつチャレンジはしていますので、なんとか対応できていると思います。授業だけでなく、会議のペーパーレス化が進み、生徒の欠席連絡も Forms で行うようになっていまして使わざるを得ない状況です。基本的なことは何とか習得し食らいついている感じです。よく努力していると感じます。

【市長】 全部の先生方がある程度使いこなしているんだなと理解させていただきます。ありがとうございます。それから、冒頭で林校長先生から話がありましたけれども、やっぱりコロナ禍で話は全然違うんですよ。コロナ禍で事務量が増えているという話がありましたけれども、やはり超過勤務とか結構増えているような状況になっていますか、先生方。

【林校長】 私は結構超過勤務にうるさい校長ですのでそれほど増えてはいないと思いますが、やはり校長の側としてもできることはしています。例えば既成の組織にこだわらずに組織改変を行いました。コロナに関していうと学校保健危機管理委員会というのを今年つくりまして、今までアレルギーだけを所管していたところにコロナを所管させて、一緒に学校の保健危機についてはそこが担当するという風に機動的に動くような工夫をして混乱なくやっております。

【市長】 本当に日常が失われているので、校長先生方も学校経営で相当大変な思いをされているなということを話の端々で感じさせていただいているんです。特に今までお話の中でリアル体験、子どもたちのリアル体験が不足している。それはもうしょうがないと言えしょうがないけれども、やはりそれに心を砕いていただいているということは大変重要なことだと思いますし、それから子どもの体力の低下が懸念されるということもそうですよね。私もよくお聞きしているのは iPad を利用して体育の授業でうまく活用しているというんですけれども、やっぱりそういう部分というのは必要なんだ、これから大事なんですかね。どうしたらリアル体験を体現できて、それから体力の低下を防げるか、これからのいろいろな思いもあるでしょうけれども、何か考えてらっしゃることはありますか、林先生、ど

うぞ。

【林校長】 やはりこういった状況の中でも昨今の状況を見ると、感染対策をしっかりとすれば基本的にはできるということが分かってきていますので、そういった機会をなるべく壊さないように、なくさないようにというのを第一で考えています。それを補うようなかたちで確かに ICT 機器が使えるればいいんですけども、やっぱり実物体験に勝るものというのは、これはないわけなので、これからもしっかり感染対策をしながら子どもをきちんと外に出して、いろいろな体験をさせていきたいというのが第一の思いです。

【市長】 ありがとうございます。小出先生はありますか。

【小出校長】 やはり直接的な体験に勝るものはないと思います。ただ ICT によって、今までできなかったことができるようになってきている例もあります。先日本校の 1 年生が、リモート企業訪問を総合的な学習で行いました。キャリア教育の一環として、企業とリモートで結び、カメラが企業の中を案内してくれたり、実際働いている方の声を拾ってくれたりします。質問に答えてくれたりもしました。ICT を活用することで、直接的な体験ではないけれど、視野を広げることができました。やはり ICT を活用する事のメリットは大きいと思います。

コロナの状況が良くなってきたら、以前のように様々な活動を思いっきりやらせてあげたいと思っています。

【市長】 ありがとうございます。お二人の校長先生からお話をお聞きして、大変苦勞されていることを改めて思わせていただきました。本当に今日は貴重な機会、時間をいただきましてありがとうございます。

それでは次に、教育委員の先生方と意見交換をさせていただきたいと思いますがいろいろお話がおありでしょう、しかしながら時間が限られていますので 1 人 3 分以内でよろしく願いいたします。それでは、加藤委員からお願いいたします。

【加藤委員】 今日は貴重な機会を与えていただいて、子どもたちの生の声を聞くことができ、現場の先生方の声も聞けて大変いい会議を開いていただきまして、本当にありがとうございます。ふっさつ子の未来は明るいなというのを非常に思ひまして、子どもたちは準備も大変だったかもしれないけれども臆することなく、本当にしっかり立派に答えてくださって一安心してよろしいんじゃないでしょうか。福生はもう彼らに任せておけば大丈夫かなというところなんです、このコロナ禍で本当に先生方は大変な思いをしていらっしゃると思いますし、それから先日、学校をお休みしてリモートで授業を受けている小学生なんですけれども、たまたまその場に居合わせることがあったんです。そのときに授業を受けられるといことでわくわくしているし、タブレットももう本当に簡単に使いこなしている。さすがいいなと、このコロナ禍を前にして、前にしてというか、コロナ禍にタブレットを支給していただけたということは本当に感謝に堪えないなってその子の姿を見ていて実感しました。

先生方もすごくしっかり授業してくださっているし、教室の子どもとリモートで授業を受けている家庭の子どもと両方に配慮をしなければいけないというのは非常に大変だなというのも横から見ていて実感いたしました。



その際にカメラの場所がなぜか横だったんです。私の想像だと教卓の上に置いてあったのかなと思うんですが、そうすると黒板が斜めになって、家庭でリモートで受けている子からは黒板が見えなかったの。やはり教室で授業をしながらリモート、家庭で見ている子の視線を考えるとというのは非常に難しいことだと思うのですが、福生市の先生方はいろいろ研究していらして、研修会もたびたび開いていらっしゃるようなので見ている側の子どもの視線も加えて、今後の研修や研究をしていただければいいのではないかなと思いました。

その際にも先生はちゃんと分かっていたらしくて、「何々ちゃん見える？」、「黒板分かる？」といったら子どももちゃんとしっかりしていて、拡大すれば見えているから大丈夫といていたので、その辺は私なんかよりもはるかに子どもたちのほうが先に行っているんだなという実感もありました。やはり両方の立場のことを考えてリモート授業を進めていっていただけて、さらに iPad を活用していただきたいと切実に思います。

そして常々思っているのですが iPad を使うのはいいと思うんです。いいというか、素晴らしいことだと思っているんですが、やはり私自身が目が悪いので、ブルーライトが健康や目にどう影響を与えるか。そういうことも今後の研究課題というか、考えていただければ福生の子たちは学力も上昇するし、体も健康に育っていくと思いますのでその辺もよろしく願いいたします。長くなりましたごめんなさい。

【市長】 いえ、加藤委員、ありがとうございました。それでは渡辺委員、よろしくお願いします。

【渡辺委員】 今日はありがとうございました。何が残念って、こういう状況なのでなかなか学校訪問に行けていないというのが非常に残念だと思っています。先ほどいろいろご説明を受けた中で本当は子どもたちにいい機会だから、市長もいるし、議員の皆さんもいるし、いい機会だから何か要望ないですかって質問しようかなと。言ってあげようかなと思ったら、子どもたち帰っちゃったので、先生方の方から例えば今、何かもうちょっと先ほど黒板の話もありましたけれども何かこういうものが欲しいなとか、あるいはそういうことがあったらいいなというふうに思いました。ぜひこの場で言っていただきたいなと思います。

それと、僕から質問は例えば今後これがクラブ活動に発展して行って、授業でもやっていると思うんですけどもプログラミングとかそういったクラブをつくりたいとか生徒が、特に中学生が言うてくるような場合、そういったことが可能なのか。あるいはその先生たちは当然ちょっと手に負えない部分があるでしょうから外部指導とかそういうところをお願いするようになるんでしょうけれども、今後の展開としてそういったものを小学校も中学校もこれを使って何かクラブ活動あるいはそのプログラミングクラブとか何かそういったクラブができていくのではとったりもします。いかがでしょうか。

【林校長】 福生第一小学校には既に課外のクラブでコンピュータークラブがありますので、iPad を使って実際に撮影して動画を作るなど、そういうことはもう既にできるような状況になっています。中学校ほど専門的なことはやらないですけども、小学校の段階でできることは、もう既にできる環境はつくっております。

【市長】 ありがとうございました。それでは坂本委員お願いいたします。

【坂本委員】 今日子どもたちの発表、プレゼンから素晴らしかったので子どもたちは育っているなということをひしひしと感じました。大人より子どもの方が慣れるのは早いんですよね。どう考えてもやっぱり子どものほうが強いですよ。大人は子どもに教われば良いと思うんですよ。分からなかったら子どもに聞いたほうが早いと思います。

先ほどの小出校長からリアルな体験が減ってきているという話が出ましたけれども、これも今始まった話じゃないですよ。ネット社会が話題になった頃からもうこのリアル体験は少なくなってきて、どうしても人と人との関係が直接的なものが減ってきている。そういったことへの危機感が出ていましたので、コロナがこういった問題になる前から今の子どもたちの問題として出ていると思います。いずれにしろ、やはりリアルな人と人との関係というものは人間形成の上で非常に重要だと思いますので、きっかけはネットでもパソコンでも何でも構わないんですけども、最後にちゃんと人と人とがきちんと付き合えるような、そういったような流れをつくっていききたいなと思います。そのためのツールであるべきであって、画面上で見ているからこれでもう非常に何かお友達なんだ、できちゃったんだということのないようにしたいなというふうには考えます。

私が一番こういったデジタルの中では困ったと思ったことは、ワープロを使うようになってから字が思い出せないことが多いことです。年のせいかもしれないですけども、書くことが何か非常に不足して、普段今まで書けていたような漢字さえ思い出せなくて変換ばかりしているというようなのがあって、今の子どもたちというのはいろいろなアプリを使うときもソフトキーボードで入力したり、また手書きの入力があってもそれもやっぱり自動的にデジタルで変換されていくわけですよ。漢字をきちんと覚えることが疎かになることはないだろうか。また、字を丁寧に書く、きれいな字を書くということをしなくても自動的にきちんとした活字になっていくということになると、そういった意識は薄くなってしまふのかなというようなことを、授業中の様子を見ながら最近気になるようになりました。書写の時間は残っているんですけども、それだけになってしまうと大切な日本語をきちんと学習するところが薄くなるのは嫌だなという気がしております。

子どもたちが iPad をどのように使っているかというのも家庭でも見てもらえるんですけども、ある学校の例としまして、教室に iPad を置いておいて黒板のほうを見て、その子どもが普段使っている座席に置いてあるんです。そこからどんな風景が見えているのかというのを家庭で見ることができるようになっていくということ。今日、小学校の低学年のそういった授業風景を午前中に見てきたんですけども、何と担任の先生にお父さんが質問するんです。すみません、今の質問ちょっと聞き取れなかったんでというようなことで、家族そろってその学校の授業に参加してくださるといふ、そういうような新しい様子を見ることができました。オンラインでの授業というのは子どもだけじゃない、家庭も保護者も巻き込んだかたちでの授業展開までできるんだというその広がり、そういったものを感じていました。

また、新たなこの例ですけども、保護者にこういったデジタル教材を理解してもらうために保護者会でその iPad を皆さんに持ってもらって、こんなことができるんですよというデモンストレーションをやったらものすごく理解が早まったというような報告もありました。子どもたちに浸透していますけれども、ぜひ何らかのかたちでご家庭の協力を得ながら家庭教育、学校教育、進路につながってきこうといった iPad から発展的に使っていただけるようになるようなことを各学校でもさらに工夫していただければと思います。高いお金をかけているんですからそれなりにやっぱり成果を望みたいので、そのためにはやはり皆が協力してもらえるような体制もぜひ工夫していただければと思います。よろしくお願ひします。

【市長】 坂本委員、ありがとうございます。それでは、最後に新藤委員、お願いいたします。

【新藤委員】 どうもありがとうございます。本当に子どもたちの成長ぶりに感動いたしました。福生は本当に早くから、これからの社会は本当に ICT なんだという、その痛切な思いだけでともかく歩き出したんです。そして、走り出した中で子どもたちの対応力であったり、教員の努力であったり、そういった中で課題を解決して今の状況に至ったという意味では本当にその意欲と手法と方向性が、教育委員会のリーダー的な役割の中で本当にうまくここまで歩けてきたなと思っております。

子どもたちが ICT のプラスとマイナスを認識しているということも今日、本当に驚きました。自分たちでしっかりとマイナスも認識しながら、例えば周辺の知識が出てくるとか、あるいはルールを忘れていたからルールに立ち戻って活用していきたいとか、そういったことがしっかりと認識できているというのはもちろん教育の成果でしょうが、それがあつた限り次々に出てくる課題をやはりこの子たちは乗り越えていくだろうというふうに思っています。また 1 年、2 年経った時にはすごく違う景色が見えるのかなというふうに思いました。

小出先生や坂本委員がおっしゃったようにリアルな状況をどうするのかという、これを育てていく、あるいは生きていく価値観であるとか、背中を見て覚えるとか、それから体の実感のその五感の中の体験で成長していくとか、こういうことがこれが出てきたときから大きな不安としてあつたわけです。ただ、そのことは、今度は教育委員会が施策の中で明確に打ち出してくれたんですが、地域総がかりの教育推進という施策を打ち出しました。これをさらに学校に結び付けてくださいというふうに申し上げましたときに、CS 委員会にこれをつなげたその施策として出してくださっているんです。

まさに学校の中だけではできない。やはり ICT を中心として知識を追い求めていくということになると思うんです。あるいはその利用、活用の仕方であるとか。やはり、福生にはやっぱり地域力があるんです。この地域の方々の子どもへの関心の高さや参加力の高さ、こういったことが今後 ICT 教育のその両輪でいわゆる人生哲学みたいな生き抜く力であるとか、その学校で学んだそういった ICT の力が、知識の体験と生き方と結びついたときに子どもたちの生きていく力になると思っています。

やはりそこは両車輪で今までの開かれた学校という、単なるそういった状況ではなくて、まさに地域総がかりでというのは福生のこの流れと規模と地域力があれば、先進を切れるであろうというふうに思っていますので。ぜひ校長先生方、この総がかりということの意味をしっかりと各学校が子どもの課題に則し考えていただいて、CS 委員会の中で具現化して今後うまく一步を踏み出していく。一步、二歩、踏み出していくその総体がまた 3 年、4 年後に地域総がかりの教育の子どもの力になってくるんだと思います。

もう一点だけ申し訳ありません。講師の先生がいますよね、時間講師。これはやっぱり 1 時間、1 限子どもの授業を持ちます。ただ、講師の先生の研修の場というのがどうなっているのかなということが私は非常に気がかりで、これは東京都の所属になりますのでその辺りのところを追い求めていただいて、学校の取り組みの中に講師が入ってきたとき、その先生によって落差がないように。子どもにとってマイナスにならないような授業を展開できるというか、その講師のところにも目を当てて校長先生方、その辺りの推進をお願いしたいと思います。以上です。ありがとうございます。

【市長】 新藤先生、ありがとうございます。教育委員の先生方にはもう少し時間を取っていただきたかったところですけども、今日は 1 時間半という限られた時間で、本当に短くて申し訳ございません。

今後いろいろとお会いする機会もあると思いますので、そのときにお伺いしたいと思います。

それではそろそろ時間がまいりましたので、次第の 5、総括に移らせていただきます。教育長から本日の会議についての総括をお願いいたします。

【教育長】まずは加藤市長、今日、総合教育会議を開いていただき本当にありがとうございました。コロナ禍ですけれども、直接こういったかたちで、一堂に会して会議を持てたということが、教育委員会にとっては施策の確認という意味でも非常に良い機会になりました。時間が限られていますので大きく 3 点お話しさせていただきます。

1 点は、今日は子どもたちが本当によくがんばった、学びの現状を発揮できたわけなんです、そのバックを支えている校長先生、ご指導いただいた先生方がいらして、その上で今日の子どもたちの姿があったなというふうに改めて思いました。実は本日は都立高校の一般入試の日で、中学校にとっては重要な日ですが、小出先生は最後までいてくださるということや、一中の子どもを送り出してくれた校長先生、先生方がいらっしゃるということで本当にありがとうございました。そして、今日、子どもの中で盗撮という言葉がありましたけれども、要は子どもたちにとってはいわゆる許可を得ないで写真を撮るということを目指していると思うのですけれども、ああいったことも影の部分として二人の中学生は認識していました。その中でやはり私が考えていたのは、改めて情報活用能力としての情報モラル教育、これを再度徹底して力を入れていかなければいけないと思いました。3,300 人の子どもたちが一人一台持っているわけですから、誤った使い方をしないように、これは学習の道具として市が子どもたちに貸与しているものです。子どもたちの発言からもありましたけれども、親御さんが見ることができる、そして先生方も見る、学習の道具としての位置付けを改めて確認していかなければいけないなというふうに思いました。

2 点目です。今日は電子黒板を実演していただきました。これも加藤市長、そして今日は企画財政部長も総務部長もいらしていただいていますけれども、教育委員会にかなりご配慮いただいて電子黒板を学年あたり 1 台入れていただけることになっています。もう近々、納品があると思います。そしてそれ以外に移動式の大画面テレビを、電子黒板の配置がない学級に 1 台入るんです。そうすると全ての学級に電子黒板か、あるいはそこにあるような大きな画面のモニターがもう一台来るということで、今日子どもたちが手元で iPad を使って画面に映していましたが、Apple TV 使って、つまり環境面の配慮を市当局がしてくださっている、教育委員会としてはその環境を最大限に生かして、教員研修を令和 4 年度以降も力を入れていきたいというふうに思いました。

3 点目です。リアルな体験ということ、これは元々小出校長先生からはコロナ禍でというお話の中でありましたが、やはりバーチャルな世界、そして ICT の活用と対になって考えなきゃいけないということです。私は改めてこのリアルなこと、つまり実体験について考えます。やはり経験ではなく体験、つまり経験というのはみんな共通なんですけれども、例えば大阪に修学旅行に行った経験はあると言いますが、大阪に修学旅行に行った経験はあるとは言わないんです。体験というのは個人的な、極めて個人的なものの意味付けになります。ですから、CS 委員会とかと小中一貫の考え方、今日は二中と一小の校長先生にいらしていただいていますけれども同じ中学校区で、足並みをそろえていただきながらリアルな体験というのを、今後も ICT と同様に対になって深めていかなきゃいけないというのを改めて私も感じたところです。以上、3 点申し上げました。ありがとうございました。

【市長】 教育長から総括をさせていただきましたけれども、そろそろお時間でございますので最後に

私からもお話をさせていただきます。お話というか、お礼です。今もう帰られましたけれども、小中学校の児童・生徒の皆さん、本当にありがとうございました。それから、お二人の校長先生、ありがとうございました。ちょくちょく話の中にも出て来ていますけれども、コロナ禍ということでございますので、私もリアル体験が不足しております、どのイベントもどの行事も全部中止になっているということでなかなかこうやって人と会う、そしていろいろな意見を交わすということが少なくなってきました。今回はやっぱり子どもさん方とお会いできて、それから現場の先生方とお会いできて、あるいは教育委員の皆さま方と意見交換できるということを大変楽しみにしておりました。そういう部分で言うと今までの霧が何かパーッと晴れたような感じがしていますけれども、これからがやっぱり何といてもコロナはコロナですからその対処をしていかなければならないなというふうに思っております。

いずれにいたしましても私は19年前になりますか。新藤先生と一緒に中学校のPTAをやっているときに、これはちょっといけないなというふうな思いがあって、新藤先生方といろいろお話をさせていただく中で市議を目指し、市議から始まって、今こういうふうには市長という仕事を仰せつかっておりますけれども、随分子どもたちが変わってきたなということをよく新藤先生とお話をさせていただいています。それぐらいいろいろな方が関わっていただいて、ここまでになってきたかなというふうな思いをしております。おかげさまで「子育てするならふっさ」で、東京都で1位というふうな話もいただいています。評価もしていただいていますけれども、それはとりもなおさず子育て世代、そして保育園、幼稚園の先生方、それから学校教育の先生方、現場の皆さんのおかげだと思っております。これからもこれを土台にして、もっともっと伸びやかなふっさっ子をつくっていききたいなと。つくっていくというのはちょっとおこがましいですけれども、ふっさっ子を支援していききたいなというふうに思っていますので今後ともよろしくお願いします。本日は本当にありがとうございました。

**【教育総務課長】** 加藤市長、ありがとうございました。ただ今をもちまして、令和3年度総合教育会議を終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。